

アユの資源状況について

1 アユ資源の状況

(1) 天然河川の産卵状況(主要 11 河川)

- ・ 令和 4 年 8 月下旬から 2 週間に 1 回のペースで 6 回調査。
- ・ 総産卵数は 58.9 億粒 (平年比 75.1%)。
- ・ 産卵親魚は豊富にいたものの、濁水により例年産卵数が最も多い姉川の産卵環境が悪くなったことで、産卵数が平年よりもやや少なくなったと考えられる。

表 1 調査次別合計産卵数と平年値との比較

(単位: 億粒)

調査次	8 月下	9 月中	9 月下	10 月中	10 月下	11 月上	総産卵数
	1 次	2 次	3 次	4 次	5 次	6 次	
R4	3.8	18.0	36.5	0.5	0.1	0.0	58.9
平年値*	2.3	51.6	15.7	7.4	1.3	0.2	78.4

※平年値: 過去 10 年のうち、合計産卵数が最大となった H28 年、親魚の成長不良により最小となった H29 年、肥満度低下により産卵が激減した H24 年および過小評価と判断された H30 年の値を除く平均値。

(2) 湖中アユの資源状況

■湖中仔アユ(ヒウオ)生息状況調査

① 調査概要

- ・ 河川でふ化し、琵琶湖へ流下した仔アユの生息状況を把握する調査。



図 1 採捕されたアユ仔魚と調査風景(デモ)

およそ 1cm~4cm のアユが採捕される。



図 2 調査水域

② 採捕尾数

- 第 1 次調査 (10 月 26 日、27 日) : 209 尾/曳網 平年(136 尾/曳網)の 154%
 第 2 次調査 (11 月 21 日、22 日) : 19 尾/曳網 平年(67 尾/曳網)の 28%
 第 3 次調査 (12 月 20 日、27 日) : 13 尾/曳網 平年(18 尾/曳網)の 72%

■周回コースによる魚群調査

- ・ 1月期を1月17日、18日に実施。
- ・ 魚群探知機による魚群数は142群で、平年値180群の79%となった。



図3 地点別の魚群数

2 早期アユの漁獲状況

- ・ 12月1日から活魚(アユ苗)漁獲開始(12月注文量11,960kg)。
- ・ エリの操業合計統数は41統(14漁協)〈R3:45統 R2:41統〉。
- ・ 初日、2日目と風が強く、出漁ができなかった漁協が多かった(初日は14漁協のうち6漁協のみ)ものの、その後の漁獲は順調に推移。
- ・ 10日目(12月10日)までに活魚の注文量を充足し、その後は12月20日まで鮮魚(食用のヒウオ)の漁獲が継続された。
- ・ 1月の漁獲は1月20日から再開された。

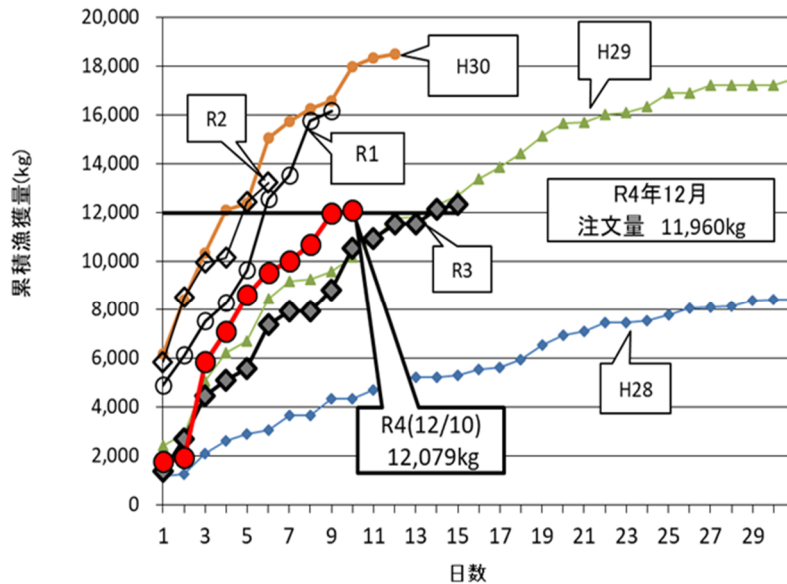


図4 早期活アユの漁獲状況

3 まとめ

- ・ 令和4年のアユの産卵期には親魚は豊富にいたものの、姉川の濁水の影響で産卵数は58.9億粒と平年の75.1%となった。ただし、産卵数が同程度であった令和元年生まれのアユの漁獲状況は順調であったことから、資源を維持するうえで必要な産卵数は確保されたとみられる。
- ・ 今シーズンのアユの成長には、昨シーズンのような著しい成長量の低下はみられず、漁業者からは今年のアユは大きいという声が多く聞かれた。
- ・ 早期アユの漁獲状況は、荒天のため初日、2日目は低調であったが、その後は順調に推移した。